



多摩美術大学日本画専攻卒業制作展

えちがい

会期：2014年2月26日(水)～2014年3月2日(日)

BankART Studio NYK 3F

展覧会概要

展覧会名：多摩美術大学日本画専攻卒業制作展

えちがい

会期：2014年2月26日（水）～2014年3月2日（日）

会場：BankART Studio NYK

（所在地：神奈川県横浜市中区海岸通 3-9）

開館時間：11:30～19:00（最終日～16:00）

休館日：展覧会開催期間中無休

入館料：無料

多摩美術大学 美術学部 絵画学科 日本画専攻では、学生による有志卒業制作展「えちがい」を開催いたします。学生28名による作品のちがい。鑑賞者が持つ感性のちがい。全てを重ね合わせてつくった言葉が今展示のタイトル「えちがい」です。今年会場を銀座から横浜に移し、「作品を通して鑑賞者と対話し合うこと＝絵画表現を通じた交歓」をテーマに展示を行います。会期中は、来場者の皆様に展示を楽しんで頂く機会として、ゲストトークショーや学生ギャラリートーク、ワークショップなどのイベントも開催致します。

「えちがい」総合お問い合わせ先

代表 坂田恭平

kyoh.xa@gmail.com

080-4412-3240

「にほんがであそぼ」に団体参加をご希望の方もこちらにご連絡ください

プレスリリースに関するお問い合わせ先

黒木美都子

tamapon2014kouhou@gmail.com

080-5517-8885

画像貸出や掲載についてのご連絡はこちらをお願いします

イベント

●ゲストトークショー「BankART でばんばん ビ・ビ・ビ！」

2014年3月1日(土) 15:00～16:30

会場：BankART studio NYK 3階

ゲスト：野地耕一郎(泉屋博古館 分館 学芸課長) × 國司華子(作家)

× 町田久美(作家) × 木内祐子(作家)

4名のゲストをお招きし、4つの質問を軸にしたトークショーを開催致します。

絵をかいてきた人、絵をかく人を見てきた人、絵をかこうとしている人と、来場者の視点。

それぞれの「ちがう」視点を、話の中で明らかにしていきます。

●ワークショップ「にほんがであそぼ」

2014年3月2日(日) 11:00～15:30(時間内随時受付)

会場：BankART studio NYK 3階

所要時間 :30分～1時間程度

対象年齢：お子様から大人の方まで楽しんでいただけます

(小さなお子様は保護者の同伴をお願いします)

持ち物：なし

※事前予約は不要ですが、20名以上の団体での参加をご希望の場合は事前にご連絡下さい

「日本画ってなあに？」普段使う機会がほとんどない日本画の画材を使って、絵を描く体験ができます。

(材料の数に限りがありますので、予定より早めに終了する場合がございます。予めご了承ください。)

●学生によるギャラリートーク

2014年2月28日(金) 17:00～

会場：BankART studio NYK 3階

●オープニングパーティー

2014年2月27日(木) 17:00～19:00

会場：BankART studio NYK 3階

いずれのイベントも無料・予約不要です。

直接会場にお越しください。

企画趣旨

ヒトが28人いれば、考え方や感じ方は28通りあります。絵を描く人だけではありません、どんな人も一人一人が違った感性をもっています。人の数だけ考え方や感じ方がある、ということはごく当たり前のことですが、私たちはともするとそのことに鈍感になりがちです。その中で私たちは多摩美術大学という環境での4年間、絵を描く事でお互いの相違点を様々な形で見つけてきました。表現の視点・目的・技法、同じ日本画を学ぶ仲間でありながら皆それぞれ「ちがい」がありました。また、鑑賞者それぞれの視点や考えも個々のバックヤードによって、同じ作品に対しても「ちがい」が生まれます。28人の展示者の「ちがい」と、鑑賞者一人一人の「ちがい」とが会場でぶつかり合う、それこそが絵画表現による交歓ではないでしょうか。

本展示会のタイトル「えちがい」は、絵を通じてその「ちがい」を再認識し、展示者と鑑賞者がともに楽しめる場を作りたいという思いが込められています。今卒業の時を迎え、社会に向かって自分自身を問いかけようとしている私たちにとって、この展示はその第一歩です。私たちひとりひとりの「えちがい」と、鑑賞者の「感性（ちがい）」とを、BankARTで交わらせ、展示空間を交歓という場として提供したいと考えています。

■作者28名の「ちがい」×鑑賞者の「ちがい」

今回私たちが目指す展示は、展示者と鑑賞者がすれ違うことなく向き合い、会話し、交歓できる展示です。絵画作品の展示の他に、ギャラリートークやワークショップを企画しています。

ゲストトークショーでは、ナビゲーターとして野地耕一郎、バネリストとして國司華子、町田久美、木内祐子ら三名の現役作家をお招きします。それぞれの制作や暮らし、作家としての社会との関わり方や、これから描いていくもの等について問いかけ、各人の考え方の違いや共通項を明らかにしていきます。お招きする三名は、それぞれ異なる角度や視点から「日本画」に関わる作家たちです。様々な考え方や生き方がある中で、では私たちは一体これから何を、どのようになしていくのか。ゲストと聴衆が、言葉を交わしながら、思考を深めるよい場となることを目的とし、企画しております。

ワークショップでは、普段触れる機会の少ない和紙や岩絵具を気軽に体験できるワークショップを開催します。道具の準備や予約は必要なく、会場に用意された紙と色々な種類の絵の具を使って、学生達と一緒に楽しく気軽におえかきをしていただこうと考えています。「日本画」というと難しいイメージを抱く方が多いと思いますが、子どもから大人の方まで、絵が苦手な方でも楽しく参加できるよう工夫を凝らし、会場内には、日本画絵の具の秘密がわかる解説コーナーや、学生たちがワークショップのために描いた小さな作品の展示もあります。日本画の絵の具に触れる事で、絵を眺める視点の変化も感じていただけたと思います。出来上がった作品は持ち帰る事も可能です。お部屋に飾りやすい大きさなので、生活空間に絵画を取り入れていただくよい機会になればと考えています。

作品画像（お貸出し可能画像）



メインビジュアル



『異同の像』 折笠 敬昭

1830 × 910 (mm)

使用画材：岩絵の具、箔、アクリル、顔料

※参考画像（出展作品とは異なります）



『白く夜に溶ける』 黒木 美都子

F80 (1455mm × 1120mm)

使用画材：アートクロスにコンテ、水干、岩絵の具

作品画像（お貸出し可能画像）・2



『やまかそらかなにかか』 林 玲

1620 × 1620 (mm)

使用画材：鳥の子紙、岩絵の具

※参考画像（出展作品とは異なります）



『とめどなく、溢れ出す』 渡邊 綾子

1900 × 1300 (mm)

使用画材：紙本着彩

※参考画像（出展作品とは異なります）



『蝉の声』 豊原 聖一

1620 × 1300 (mm)

使用画材：紙本着彩

※参考画像（出展作品とは異なります）

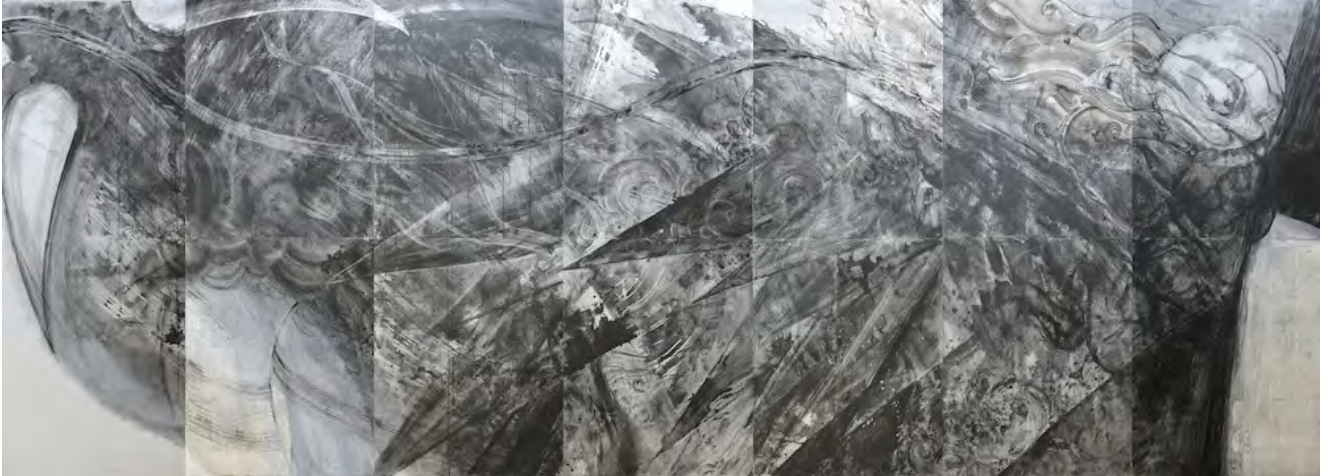


『モチはモチ - 1』 中田 布美

F60 1303 × 970 (mm)

使用画材：アートクロス、水干、岩絵の具

作品画像（お貸出し可能画像）・3



『分神 #8』 坂田 恭平

2334 × 6370 (mm)

使用画材：パネルに和紙、ラッカー、墨、顔料、箔、胡粉

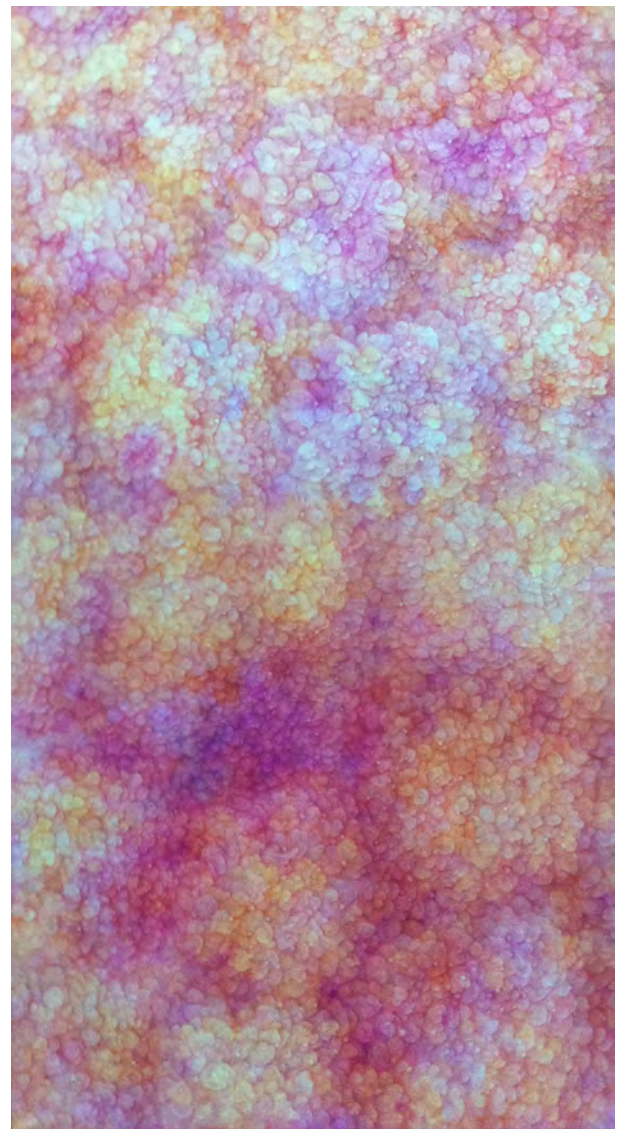


『虎ノ縄』 千葉 大二郎

1940 × 1620 (mm)

使用画材：和紙・水干・金属粉

※参考画像（出展作品とは異なります）



『癒し II』 Yoo Seunghee

1820 x 910 (mm)

使用画材：高知麻紙、水干絵具

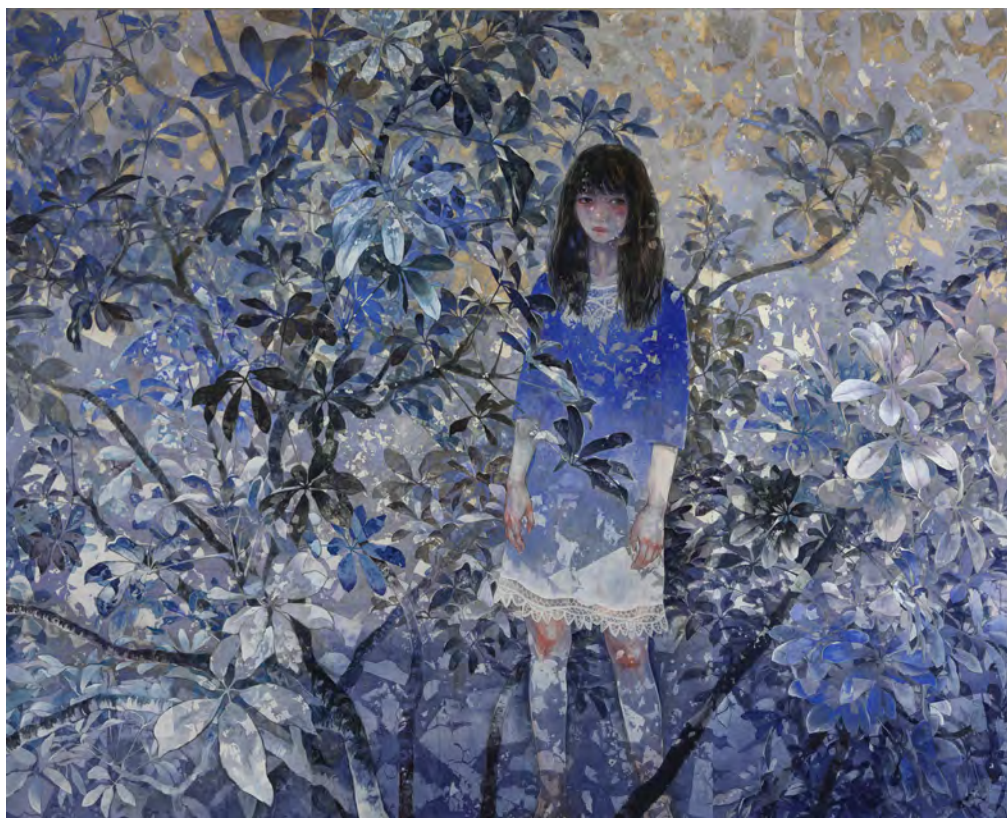
作品画像（お貸出し可能画像）・4



『うつろいゆくもの』 岩本 朝美

2273 × 1818 (mm)

使用画材：岩絵具、水干、箔、高知麻紙 ※参考画像（出展作品とは異なります）



『カボック』 飯田 文香

1800 × 2300 (mm)

使用画材：和紙、パステル、鉛筆、岩絵具、水干、典具帖紙、銀箔